

令和4年8月19日

八戸市議会  
議長 寺地 則行 様

スポーツ文化施設建設運営特別委員会  
委員長 中村 益則

### 視察実施報告書

本委員会は、次のとおり委員を派遣し、調査視察を実施したので、行政視察等実施要領第2（3）の規定により報告します。

- |            |  |
|------------|--|
| 1 日 時      | 令和4年7月27日（水）～7月29日（金）  |
| 2 視察先・調査事項 | (1) 大阪府堺市<br>大浜体育館・大浜武道館について<br>(2) 愛知県豊橋市<br>穂の国とよはし芸術劇場（プラット）・まちなか図書館・<br>まちなか広場について |
| 3 調査結果概要   | 別紙のとおり   |
| 4 派遣委員     | 中村 益 則<br>高橋 貴 之<br>三浦 博 司<br>工藤 悠 平<br>吉田 淳 一   |

# スポーツ文化施設建設運営特別委員会視察 報告書

- 1 視察地 大阪府堺市
- 2 視察日時 令和4年7月28日(木) 10:00～
- 3 調査事項 大浜体育館・大浜武道館について
- 4 対応者
- ・堺市文化観光局 スポーツ部 スポーツ施設課  
課長 若林 敦子 氏  
課長補佐 高瀬 篤久 氏  
管理係長 赤堀 喜大 氏  
杖村 典子 氏、箕澤 りさ 氏
  - ・堺市議会事務局 総務課  
課長補佐 小畑 知志 氏

## 5 調査視察内容

### (1) 施設の概要や特色について

#### 【施設概要】

建築面積：9,152.13 m<sup>2</sup>

延べ面積：12,908.55 m<sup>2</sup>

階数：地上2階

構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造）

#### 【主な諸室】

##### ○大アリーナ

フロアサイズ：2,194 m<sup>2</sup> (48.5m×44m)

固定観覧席：1,620席、移動観覧席：630席、車椅子席：24席

競技ごとの設置可能面数：バレーボール（3面）、バスケットボール（2面）、ソフトテニス（3面）、ハンドボール（2面）、バドミントン（8面）、フットサル（2面）

##### ○小アリーナ

フロアサイズ：915 m<sup>2</sup> (20.2m×44m)

固定観覧席：418席、移動観覧席：350席、車椅子席：4席

競技ごとの設置可能面数：バレーボール（1面）、バスケットボール（1面）、ソフトテニス（1面）、バドミントン（4面）、フットサル（1面）

○柔道場

フロアサイズ：671 m<sup>2</sup>  
固定観覧席：154 席、車椅子席：6 席

○剣道場

フロアサイズ：671 m<sup>2</sup>  
固定観覧席：154 席、車椅子席：6 席

○スタジオ（大研修室）フロアサイズ：265 m<sup>2</sup>

研修室（4 室）フロアサイズ：各約 50 m<sup>2</sup>、トレーニング室 フロアサイズ：416 m<sup>2</sup>

【アリーナの特徴】

- ・大アリーナと小アリーナの短辺 44mの長さは全国的に数少なく、ハンドボールコート  
を 2 面設置できる。
- ・床下地材は、運動時の快適性に優れた鋼製床（緩衝効果値 20 程度）を採用し、耐荷重  
5 t 仕様の高品質で、可動式バスケットゴール等の重量物移動による負荷にも強い。  
また、相撲巡業やコンサート開催、2 tトラックの直接搬入も可能。
- ・床材は、積層フローリングのカバー材を採用し、表層 6 mmに膨張伸縮に強い広葉樹材  
を使用しているため、メンテナンスや補修がしやすく、安全性が高い。
- ・天井は、有効高が 13m。キャットウォークに照明等を設置することで、メンテナンスや  
更新が容易。天井トラスの六角形は日本最古の木造洋式燈台として、国指定史跡でもあ  
る旧堺燈台の平面形状を表現している。
- ・アリーナには可動式の間仕切り壁を採用しており、日常的には大・小アリーナに分割  
して使用し、大規模大会などでは一体型のワンアリーナとして使用できる。
- ・アリーナでは、観客席の落下防止パネルが透明ガラスでできており、視界が開けている、  
競技観戦の際に邪魔にならない仕様になっている。

【武道館の特徴】

- ・柔道場、剣道場ともに天井の高さは 5 m。最も試合場が広い「なぎなた」（16m四方）  
が 2 面ずつ設置できる。
- ・床下地材は、遮音性に優れた鋼製床の採用に加え、遮音シートも設置し、剣道の踏込み  
や柔道での体をたたきつける重量衝撃音が階下に響かないようにしている。
- ・床材は、複合フローリングのヒノキ材を採用し、素足での足ざわりの良さやメンテナ  
ンスのしやすさに優れている。また、表面は裸足の競技を考慮し、無垢の肌触りに近い最  
新の仕上げ材を使用しており、仕上げ材を使わない無垢材より汚れやささくれに強い。

【維持管理費について】

維持管理・運営費用は、15 年間で約 18.6 億円（約 1.24 億円／年）

（2）開館までの経緯等について

旧大浜体育館は昭和 46 年に建設された堺市で最も古い体育館で、施設の老朽化が著しく、利用ニーズに応えることが困難となっており、また堺市において、武道の振興や競技力向上を図る拠点の整備が求められていたことから、市民が安全で快適にスポーツに親しめる体育館として建替え、堺市の武道振興の拠点となる武道館を併設することとなった。→体育館の建替えに向けて調査・検討を行い、「大浜体育館建替（武道館併設）整備基本構想」を策定し、この構想を基に整備基本計画ができあがった。  
→令和 3 年 4 月にリニューアルオープン

## 【大浜体育館建替（武道館併設）整備基本計画で示された整備コンセプト】

### 1－「する」スポーツの推進

- 誰もが使いやすい施設、市民が交流しやすい施設
  - ・身近な地域で安全で快適にスポーツができる施設とするとともに、ユニバーサルデザインに配慮し、子どもや高齢者をはじめ、誰もが使いやすい施設とする。
  - ・スポーツ活動を通じた地域交流の機会を提供できる施設とするとともに、市民が気軽に来館し、憩える施設とする。

### 2－「みる」スポーツの推進

- 競技スポーツに対応した施設、快適な観覧環境を整えた施設
  - ・バレーボールのV・プレミアリーグをはじめ、トップレベルチームの利用にも適した施設とし、市民が、その試合を身近で観て楽しめる施設とする。
  - ・観覧しやすい環境を整えるとともに、広いエントランスなど観覧者の動線に考慮した施設とする。

### 3－ 武道振興の拠点整備

- 武道に親しめる施設、武道で利用しやすい施設
  - ・大浜体育館の特長である武道場を充実させ、本市の武道振興拠点となる武道館を新体育館に併設整備し、市民が武道に親しめる施設とする。
  - ・観覧席を設置するなど、比較的小規模な武道大会や昇段審査会などで利用しやすい施設とする。

### 4－ 大浜公園の魅力向上

- 公園との一体性を図った施設、非常災害時に備えた施設、環境に配慮した施設
  - ・大浜公園や堺旧港の景観と歴史に配慮し、公園との一体性を図った施設とする。
  - ・地震や津波などの災害に強い建物構造とし、防災機能の充実を図った施設とする。
  - ・省エネルギーに配慮した技術や再生可能エネルギー利用設備を積極的に活用した施設とする。

## （3）利用状況・施設の取り組み等について

### 【市民の利用状況やスポーツ大会などの開催状況について】

#### ○令和3年度稼働状況（※共用利用を含む。）

- ・アリーナ：平日 67.0%、休日 92.5%
- ・武道館
  - 柔道場：平日 36.5%、休日 72.5%
  - 剣道場：平日 41.4%、休日 77.7%

#### ※参考－旧大浜体育館（令和2年度）

- ・大体育室：平日 61.0%、休日 92.6%
- ・小体育室：平日 72.5%、休日 95.5%
- ・柔道場：平日 20.3%、休日 55.8%
- ・剣道場：平日 30.2%、休日 59.6%

## ○大会などの開催状況

- ・南大阪最大規模となる本体育館の特性を最大限に活かし、堺市をホームタウンとするVリーグ・堺ブレイザーズのホームゲームを誘致、開催している。  
また、関西学生柔道選手権、全日本少年少女空手拳法選手権、Wリーグ等の大会も行われている。
- ・プロスポーツチームの利用実績について  
現在プロスポーツチームの利用実績はないが、大阪エヴェッサ(バスケットボール)、シュライカー大阪(フットサル)の試合開催について調整予定。

## 【施設の取り組みについて】

### ○集客のための取り組みについて

- ・平日の稼働率を上げるため、子育て世帯、高齢者、学生等、幅広い世代に対応したスポーツ教室(自主事業)を実施している。
- ・屋内に整備したキッズスペースは、子育て世代に気軽に立ち寄ってもらえるような設備とし、自主提案施設との相乗効果による集客に寄与している。
- ・PFI事業者から、アリーナの稼働率向上策として、プロスポーツチームの利用誘致、私立中学・高校等の進学相談会や、就職相談会の誘致等の提案を受けている。
- ・トレーニングジムについては、最新の機器を備えながら、低廉な価格設定により市民が使いやすい施設としている。また、医療機関と連携し、年齢や体力に合わせたトレーニングアドバイスをするなど、利用者が安全・快適にスポーツを楽しめるよう取り組んでいる。

## (4) 今後の課題について

- ・事業者は15年間という長期にわたって施設の管理運営を担うことで、管理運営ノウハウの蓄積がされ、利用者サービスの向上が期待できる一方、モニタリングを行う側である市の担当者変更等により、モニタリング力の低下、事業者への監督指導体制等への懸念があることから、一層の業務状況の把握、監督指導の徹底による公共サービスの品質の低下を防ぐ必要がある。
- ・施設整備にあたり、ふるさと納税による寄附金を募っていたが、供用開始に伴い、寄附が伸び悩んでいる。新たな歳入方法として、体育館等のネーミングライツを売却したが、寄附金による歳入財源も一定額維持(確保)するために、より魅力的な返礼品等を検討する必要がある。
- ・大小さまざまな大会で、土日祝日の利用はほぼ埋まっている(約98%)が、今後、トップレベルチームや全国規模の大会等を誘致し、大規模施設として活用していく必要がある。(利用形態・住み分けの考慮など)
- ・本施設が立地する大浜公園と、その周辺エリアの活性化及び賑わいづくりについて、関係部局や各事業者と横断的な連携・協働に断続的に取り組んでいく必要がある。

## 6 視察所感

当市の体育館建て替え構想に関し、近年建て替えられた施設の特色や運営、維持管理費等について伺い、今後の参考に資するため視察させていただきました。

堺市は人口約 80 万人と規模の大きい都市で、アリーナ席も南大阪最大規模の約 3000 席を備えた大アリーナをはじめ、武道館として、柔道場、剣道場も併設し各会場とも観覧席を設けるなど充実した施設だと感じた。

競技をする人だけではなく、みるスポーツの推進の観点からも観客席の充実を図っている点は必要だと思った。

体育館施設は大浜公園内にあり、堺旧港の景観と歴史に配慮し、公園と一体性を図った施設として整備されている点も魅力の向上につながっていると思う。

課題として、平日の稼働率を上げることや、15 年間の長期事業のため、モニタリングを行う市側の監督指導が適切に行われるか、また、施設整備に充てるふるさと納税の寄付金の伸び悩み等で歳入財源の確保が難しい点を挙げていた。対策として、プロスポーツチームの利用誘致や学校の進学相談、就職相談会の会場としての利用等が検討されている。

公園敷地内にあるカフェでは障がい者を雇用し運営をするなど、社会貢献の場を設けている点も共感できる取組である。

当市で課題に挙がる駐車場料金は 1 日 600 円を徴収しており、当市に馴染むものか検討課題である。

# スポーツ文化施設建設運営特別委員会視察 報告書

- 1 視察地 愛知県豊橋市
- 2 視察日時 令和4年7月29日(金) 10:00～
- 3 調査事項 穂の国とよはし芸術劇場(PLAT)・まちなか図書館・まちなか広場について
- 4 対応者 ・穂の国とよはし芸術劇場PLAT  
事業制作部 芸術文化プロデューサー 矢作 勝義 氏  
・豊橋市都市計画部 まちなか活性課  
課長補佐 田村 亨 氏  
主 幹 大竹 宏昌 氏

## 5 調査視察内容

### I - 穂の国とよはし芸術劇場(PLAT)について

#### (1) 施設の概要や特色について

穂の国とよはし芸術劇場は、東三河市民のための演劇・舞踏・音楽等の芸術文化の振興と芸術文化を活用した市民の交流と創造活動の活性化を図るため、芸術文化交流施設として平成25年に開館した。

主ホールは客席数778席で、舞台芸術の創造と上演に対して良質な劇場環境を実現し、出演者の熱気や緊張感、生の台詞が客席に自然に伝わることに配慮した親密感のある劇場となっている。

その他、舞台芸術から音楽芸術、講演会など幅広い文化活動が可能な小劇場空間となっている客席数266席のアートスペースや、演劇、ダンス音楽の練習や発表などが可能な創造活動室、展示や会議が可能な研修室などがあり、市民の皆様が交流・活動する文化の“プラット”ホームとして幅広く活用されている。

#### 【施設の特色】

- ① 建設用地のサイズの関係もあり、近年建設されている同種の施設に比べても、コンパクトなサイズであることで、施設の各所に目が行き届き、細やかに管理運営できる。
- ② 演劇を生で鑑賞するのに適した客席数・舞台サイズ・施設設備を備えており、周辺地域に同種の施設がないことから、首都圏で上演される優れた舞台作品の上演会場として活用することができる。
- ③ 新幹線・在来線の駅に隣接しており、アクセスが非常に良い。

#### (2) 開館までの経緯について

施設建設は、「第4次豊橋市基本構想・基本計画」(平成12年3月)や「豊橋市生涯学

習推進計画」(平成13年3月)など、様々な行政計画の中で必要性が検討されてきた。

その後、「第4次豊橋市基本構想・基本計画(平成13年3月)において示された「笑顔がつなぐ緑と人のまち・豊橋」を実現するために、特に重要性かつ先導性をもつリーディングプロジェクトのひとつである「まちなか文化の創造」の主たる事業として計画された。

### (3) 特色のある事業について

778席という中劇場規模の演劇に特化した劇場であるという利点と、首都圏からの関西に抜けていく通過点にあり、新幹線停車駅から徒歩圏内という立地条件を活かし、首都圏の東京芸術劇場、世田谷パブリックシアター、パルコ劇場、彩の国さいたま芸術劇場、KAAT神奈川芸術劇場などで上演された優れた舞台作品をコンスタントに招聘上演している。同時に266席の小劇場を活用し、他の地域では招聘することが少ない、首都圏で注目されている小劇場作品の招聘公演も実施している。

また、企画制作および舞台芸術の専従の専門スタッフが、創造活動室という稽古場を活用して「高校生と創る演劇」「市民と創造する演劇」といった舞台作品の創造事業を通じた人材育成や、教育委員会と連携して学校へ演劇・ダンスのワークショップを積極的に派遣するとともに、その講師を地元地域で育成するための事業などにも取り組んでいる。

### (4) 魅力的な空間整備とその活用方法について

施設のコンセプトは、

- ① 駅から線路に沿って伸びるペDESTリアンデッキの先に、人の流れを受け止め、抱きとめる空間をつくること。
- ② 東海道新幹線が走る列車からも、豊橋のシンボルがはっきり目にとまるような鮮やかなデザイン形態をつくること。

また、施設構成については、市民活動がお互いに刺激しあい、賑わいとなって街にあふれ出るように、創造の中心核として1階にオープンスペースの交流スクエアを設定しました。この周りを取り囲むようにアートスペースをはじめとするすべての創造活動諸室を設け、賑わいを集中させている。

### (5) 維持管理費について

本施設は、PFI方式により建設を行い、運営業務を公益財団法人豊橋文化振興財団が、維持管理業務をSPC(PFI事業者)が担っている。

維持管理費として、指定管理料とサービス購入費B-1(維持管理費)・B-2(修繕費)にて1年間運営をしている。指定管理料は利用料金制で年間約7,000万円、サービス購入費B-1は年間約5,000万円、サービス購入費B-2は年によって金額が大きく異なるが、平均すると年間約1,500万円である。

### (6) 今後の課題について

施設単体の課題としては、建設から10年が経ち、PFI期間(15年間)の終了を見据えるなかで、施設維持管理(大規模修繕等)に対する検討が必要となっている。

また、本施設は、新たに開館した「まちなか図書館」のコンセプト“知と交流の創造拠点”との親和性も高く、様々な連携により活性化を図っていきたいと考えている。

## Ⅱ - まちなか図書館について

### (1) 施設のコンセプト 【一世界を広げ、まちづくりに繋げる“知と交流の創造拠点”一】

まちなか図書館は、本の閲覧や貸出といった図書館の基本的な機能に加え、訪れた人同士の交流が生まれ、そこから新しいコミュニティや活動が生まれるような施設となることを目指している。

まちなか図書館では、本やインターネットといった活字の情報だけでなく、講座やセミナーなどを積極的に開催することで、人から人へと生きた情報が伝わる機会を提供していく。誰もが気軽に訪れ、安心して過ごせる「居場所」であり、一人ひとりが主役となり、思い思いの発信ができる「舞台」にもなる。そんな図書館に集い、つながったひとたちが、未来の豊橋を創造する担い手となるよう願って生まれた施設である。

### (2) 開館までの歩み

まちの主役である市民にとって使いやすく、親しみやすい図書館にするために、意見交換会やアンケート、ワークショップを重ね、さまざまなアイデアや意見を取り入れて、サービス方法や活動内容の計画を進めた。

また、気軽に本に触れられる環境づくりのためのイベントや、情報発信を後押しするプロジェクトなどの事業を通じて、市民の活動がまちに広がり、まちづくりにつながるようなムーブメントの醸成を企図している。

### (3) 施設の概要・特色

○面積：3,978.24㎡（2階：1,913.76㎡、3階：2,064.48㎡）

座席数：520席

収容可能冊数 開架書架：約106,000冊、閉架書架：なし

#### ○テーマ配架について

これまでに触れる機会のなかった本との出会いを楽しんでもらうため、従来の図書館で使用されてきたNDC（日本十進分類法）にとらわれず、各ゾーン・スペースのコンセプトに沿って資料を並べる独自のテーマ配架を行っている。

#### ○座席予約システムについて

座席予約システム（全520席中220席）を導入しており、場所取り等のトラブルを防いでいる。予約枠は、「9:00～12:50」「13:00～16:50」「17:00～20:50」の3枠。

#### ○空間づくりについて

・通常であれば、学習室や閲覧室は小分けにされるが、ここでは1つの大きな空間をゾーニング。各ゾーン・スペースを間仕切りで区切らず、書架の高さをおさえることで広がりを持たせ、交流・活動を促すための「動」の空間を意識している。

・2階は比較的賑やかで活動的な空間(会話・声出し可能、ラジオ体操の企画も開催。)で、3階は比較的落ち着いた空間となっている。

・子どもから年配の方まで幅広い方に使ってもらうため、ゾーンごとにテーマを持たせている。講演会、ワークショップ、映画上映、セミナーなども頻繁に開催している。

(※夏休み期間中は豊橋市が舞台の朝ドラ「エール」を一挙放送など)

### Ⅲ - まちなか広場について

#### (1) まちなか広場整備の背景について

※  
まちなか広場は、豊橋駅前大通二丁目地区第一種市街地再開発事業の1つとして、多くの人が集い、交流し、滞在する広場として、また、中心市街地における歩行者の回遊動線形成における一翼を担い、歩行者の休息、交流等の用に供する広場となることを目指し、現存する児童広場の再整備として進められた。

#### ※豊橋駅前大通二丁目地区第一種市街地再開発事業…

良好な市街地環境の整備改善やにぎわいの創出等を目的とした事業。老朽化した建物や旧バスターミナル施設の建替えに合わせて、まちなか広場も一体的に整備された。まちなか広場は再開発区域の中心に配置され、再開発ビルの低層部にある商業・サービス施設や、まちなか図書館とのつながりを重視した計画であった。

#### 【事業概要】

施行者：豊橋駅前大通二丁目地区市街地再開発組合

地区面積：約 1.5ha 地域地区：商業地区、防火地域

事業期間：平成 27 年度～令和 6 年度

事業費：約 229 億円（うち国・県・市補助金額：約 98 億円）

補助制度：社会資本整備総合交付金

#### (2) まちなか広場の概要・特色について

まちなか広場は、各種イベント等に対応可能な多目的機能及び緑を強調する緑化機能を配置するとともに、再開発区域内の商業・サービス業、まちなか図書館等と融合し、区域の魅力を高めるためのものである。

駅前大通りなど、まちのどこからでも広場につながるような空間を形成している。

#### 【施設の特色】

- ・広場の再開発を進める中で、市民の方々の意見等を十分に聞いて整備していくことが重要であると考え、ワークショップを4回ほど開催して、要望を取り入れながら、活用形態を多目的に使える空間と緑がある空間の2つとした。
- ・「多目的空間」は、事前に申請することで様々なイベント等を開催することができる。夜には季節や時間によって変化する演出照明も楽しめる。
- ・「みどりの空間」は、たくさんのお木々やベンチがあり、誰でもいつでも使うことができる憩いの空間となっている。
- ・利用可能な無料の設備もあり、電源設備・音響設備のほか、ガーデンテーブルやテント等の貸出しも行っている。無料のWi-Fiも整備されている。

#### (3) 今後の課題について

重要なのは、整備したところをいかに活用していくか、いろんな方にどのように活用して頂くかという点だと考えている。ソフト事業として、これまで歩行者天国やマルシェなどいろいろ取り組んできたが、やはり市だけがやるというのは限界がある。

今後としては、民間の方が主体となって、市や周辺施設・商店街と連携し回遊性を高め、そしてその取組を、みんなで継続してやっていくということを重視していきたい。

## 6 視察所感

穂の国とよはし芸術劇場プラット・まちなか図書館・まちなか広場の視察では、各施設の概要や特色を伺った。

図書館がまちなかにあることで、にぎわいの創出につながっている。開館にあたり、館長を全国公募し、元NHKディレクターの方が東京から移住し就任しており、様々な独自色を出して、知と交流の創造拠点の場を提供している。図書館ではセミナーやワークショップ、各種相談会、シアターなど多彩なイベントが行われ、子どもから高齢者まで幅広い内容の行事が行われている。当市に置き換えると、図書館、はっち、公民館が一体になった内容を行っており、充実した空間を創っていると感じた。

芸術劇場は東三河市民の演劇、舞踊、音楽等の芸術文化振興を図るため設置され、市民の交流、活動する文化のプラットホームとして活用されている。

新幹線、在来線駅とつながっており、アクセスの良さからも利用しやすい施設になっている。大規模な施設と違い、利用のしやすさも利点だと感じた。

課題として今後の維持管理費、修繕費が挙げられ、まちなか図書館との連携でさらなる活性化を図ることを検討している。

中心市街地活性化計画では、駅周辺の整備でにぎわいの交流空間、回遊したくなる魅力づくり、快適に暮らせるまちづくりを目指し、整備を進めている。当市の中心市街地のあり方について参考にするべき点を整理し、提案して参りたい。